





「んっ……んっ」

「んっ……んっ」

何………んっ

動け……ない……んっ」



「そっだ私…。
蟲の怪物に襲われて…」。

「うっ…」

この異臭と熱気…ここは怪物の体内？
何とか抜け出さないと…」



「アスナ……の蟲の子供達？
放してっ！」

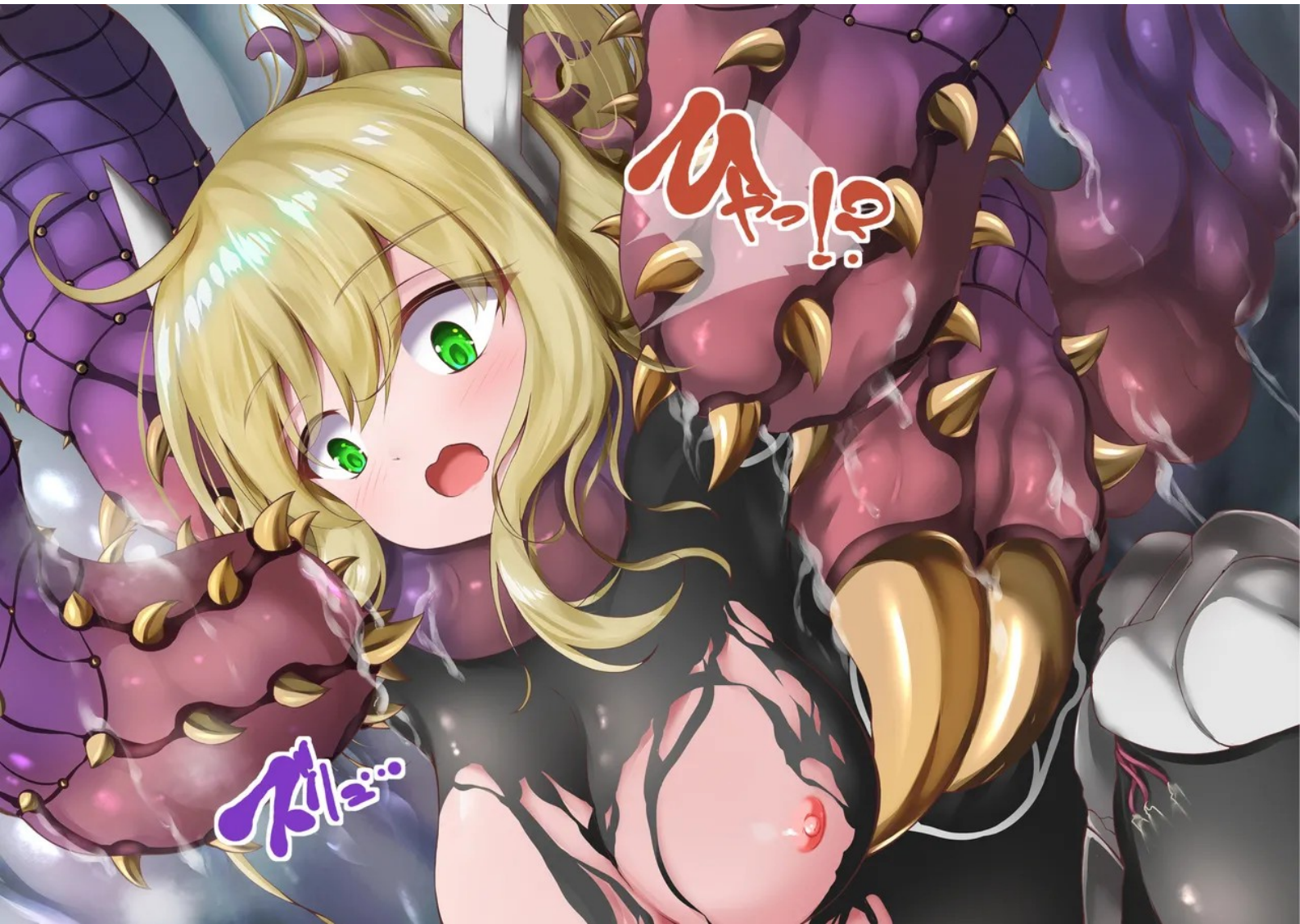
「武装が無くてっ
こんな拘束くらっ……！」

ギョッ!!

ギョッ!!

ギョッ!!

ギョッ!!





(蟲が増えた？近い…。
生臭い吐息…気色悪い。)

「私を捕らえて何の用かい？
解放しなさい！」

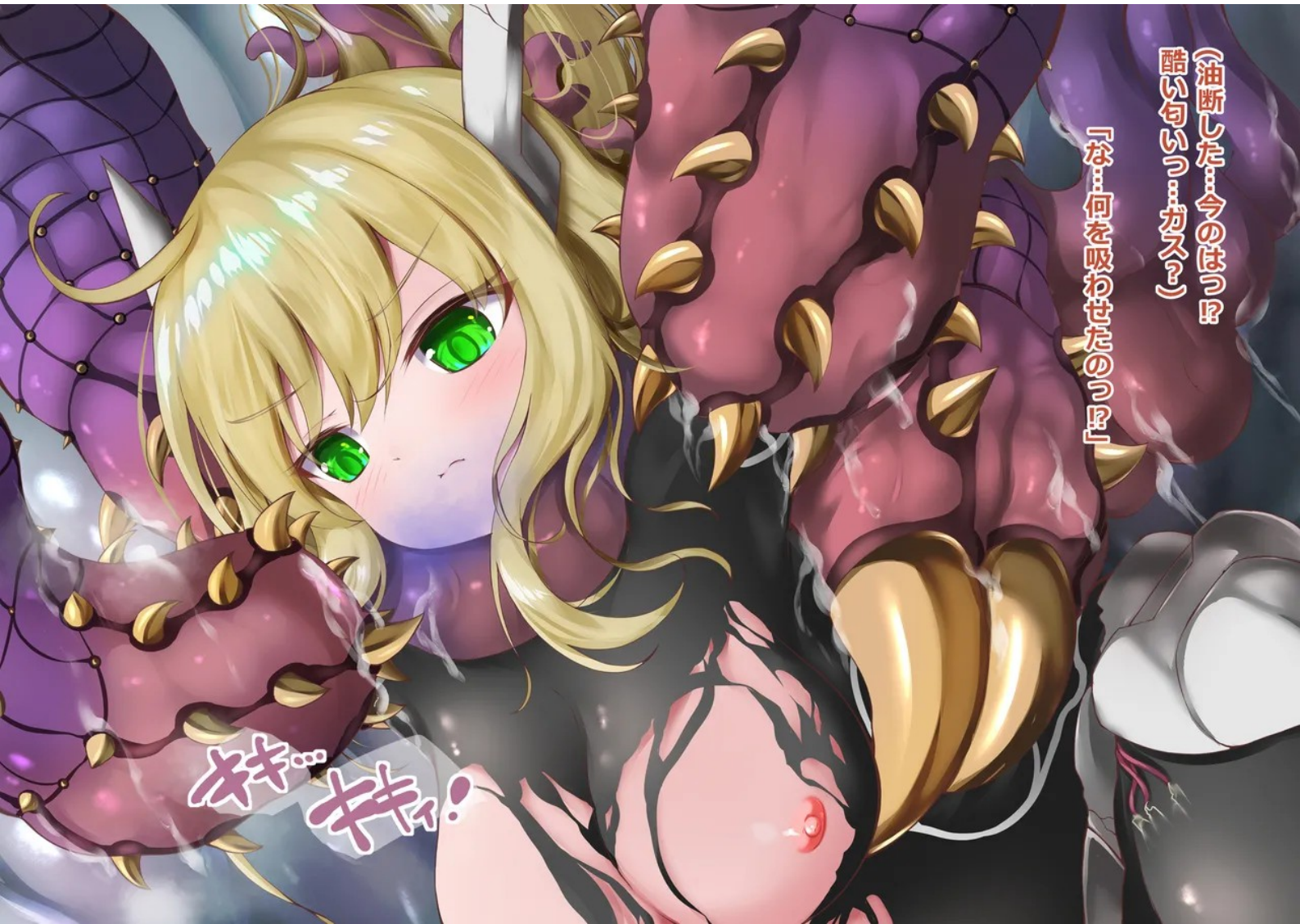
た
た



なに?

アッ...





（油断した…今のほうが
酷い匂いっ…カス？）

「な…何を吸わせたのっ!」

ギ...ギ!



「うっ…あれ…?
か…身体が…痺れてっ…!」

(苦しくはないけど…上手く動けない。
全身の力が抜けて…あのガスは毒っ!)

ギョッ

ギョッ

ギョッ





「うん...うん...
...うん...うん...
うん...うん...うん...」

(今の...蟲の体液?)

ネ...





「そんな…装備がっ!」

(蟲の体液で一気に腐食した?
既に半壊してたとはいえ
こんなに簡単に壊れるなんて…)

しゅわっ…

「ス…スイーツも溶け始めてるっ!」

(変身が解け始めてる…。
生身で蟲の体液を浴びたら
流石に身体が不味いつ…!)





「時間が無い……！
一刻も早く抜け出さないと！
せめて片腕だけでも抜けられよう！」

（…まだ力が上手く入らないっ！
あの毒がまだ効いてるのね…
お願い…何とかが動いてっ…！）

ズッ…！

ギッ

ズッ…！！

ズッ…！



「あきつぽ…つえええ！」

(首の触手が締まって…
苦しい…首絞められているぽ
これ…抵抗するなごて事…?)

キッパ

ヒキッ…

ギッ…!

ギッ…!



(首の触手が緩んだ...?
よかつた...助かつた...
でもこれじゃもう抵抗できない...!)

は!!

はー...

は...

は



「ゲホツ…えええ……
臭い…臭すぎるっ…
う…うっっ…」

（ガス…今度は大量に吸っちゃった…！
でも何だかさっきのガスと違う…
甘い香りが混じってたような…？）

キィ…

キィ





「ひゃ!?身体が火照って...どうなってるの!」

(やっぱりさっきのガスとは違う...
肌が熱いっ...それにア...アソコが切ないっ...!)

はー♡

キキキ...

キョ♡

はー♡

「んんっ…こんな状態じゃ抵抗も…
やっ…？スーツがもう限界っ…
嫌っ…持ちこたえて…！」

（んんっ…
身体全然動かせない！
もう駄目っ…）

んんっ…
んんっ…
んんっ…





ん...

ん...な...

んんん...



「あぁっ!?…んあぁあ…♡」

(そんな…スーツまで失った…!?)

ああ…蟲の体液まみれの皮膚が焼けるように熱い…
私の身体も…このまま溶かされてしまうのっ…!!)

ゼッパ

びっ♡

びっ♡



「何処へ行くの……」
待って……お願ひ助す……」

んっ!

フズ……

キィー





「あひょ...んんんんんん...
.....あれ...何ともない...
身体...溶け...ない?」

（全身が凄く熱くて疼く...。
でも...それ以上の変化はないみたい...。
消化しようとしているんじゃないの?）

ん...

ん...?

「ほひらっ♡な…何っ!」

(怪物に吞まれた手足…しゃぶられてるっ?
舌みたいなのが中で巻き付いてっ!
私の汗や汚れを舐め取るみたいにつ…)

「んんうう♡やめっ…ああああ♡」

(大人しかつたのに何で急にこんな…っ…
激しく吸い付いてる…生身になったせい?
それにおかしい…身体がこんな敏感につ!)





「あんっ♡…はあ…はあ…
大人しくなった…?
ううっ…気持ち悪い…っ…」

(蟲に私の手足…隅々まで舐め取られた…っ…
蟲の中ゴブゴブで…ドロドロして凄く熱いつ。
食べる気はないみたいだけど何が目的で…?)

んっ♡

ドロっ



「え？また別の轟……
今度はお腹の方だ……」

が……



يا صبيح

يا صبيح

「んっんっんっ♡あぐっんっ♡んっ♡」

（舌先でお臍の穴拡げてねじ込んでるっ！
うっっ…手足みたいに舐めながら
汚い体液念入りに塗りつけてる…っ…）

「せうやめっ…んっっっひやいっいっ…♡」

（お臍ごんな乱暴にされてるのに痛くないっ…
それ…JINが気持ちよ〜っ…!?!）

セクッッ

セクッ

ヒッ…♡

ヒッ…♡

セクッ♡

セクッ♡







「はあ…はあ…今の…何？」

（お臍の奥…刺された…た…？

舌が臍の絡みだいたに繋がって…

何か流れ込んできてる…？）

「んん…んん…」

あああああ…っんんんっ♡」

（お腹の中…内臓が今の肌みたいに疼く

特にお腹の下辺り…凄く熱くてっ…

な…何をなされてるのっ…？）

しん…

んん…

フヒ…



え...?
や...!

ズズ...

ギ...

「ひっ...!?
また蟲が...
後ろ...から...っ」
（そっちは...ま...まさかっ!?）



はぁ... ずいぞ!

くさお...

ん?

(お尻...の...い...い...)



「ん...お臍みたいにおかしくなると...
虫のフロアロ塗り込まれたら...
（ごんなの...何で気持ちすらすらのお...?）」

「お尻...舐めたい...
あ...ん...ごんなの...
は...ん...さ...ん...」

あ
ん

ゼン

ふん

ふん

ゼン





はー...

はー...

ドク...

(収まっ...た...?)
見た目は変わらない...でも...
感覚は今までと間違いなく違う。
私の体内...どうなっちゃってるの...?)





かっかん

グッ!



(魔の舌がしり)
口の中を回してく
て...きやあ(あはは)

あははは
あははは

あは!





「あがつほ...んほっ...
やめでええ...
んっ...んっ...」

(んっ...甘い...木味い...
蟲の臭いドロドロ汁...
口とお尻から注ぎ込まれてる...)

んっ...

んっ!

んっ!

んっ!



「んふう…んんっ…
んん…っ♡」

（まだ轟が…っ…
待って…そこは…？
そこだけは舐めちや駄目っ！
やめてえええ！）

お！

おっ

ひび…

ズ…



「んんんん」

(嘘でしょ?)
舌先がおしつこの穴まで
入ってきてっ!!

んんんん!!
んんんん!!

んんんん!!
んんんん!!

んんんん!!

んんんん!!
んんんん!!



「ぐわわわわわわわ」

(おっぱいもむりゃー)

おっぱいが...おっぱいを...

しゃべりゃしゃべりゃ

ぐわわわ...

ぐわ...ぐわ...



おんおんーっ

「んんん…熱いっ!?」
まさか空っぽになった私の膀胱に
あの汁注ぎ込んでるの…?」

「Fuuuuuu」

オヤ!

ドク…

ドク…





「えおおお...がぼっぽっげえ!!
んじゅんじゅん...んじゅんじゅん...」

(またカスがつ...鼻から吸わされるっ
舌で喉奥突いて無理矢理吸わせてるっ
臭すぎるっ濃いつ...これ変になる...
頭おかしくなる...っっ...)

が...

んじゅん...

が...



「AA.....♡♡♡」
(.....)

ア...

ア...

ア...





ズィィ...

ズィィ...

目覚めるといつもの変わらぬ光景が広がる。
生臭さと熱気が籠る肉壁の空間...。
蟲達の唾液でドロドロの火照った身体...

毎回発狂しどれ程意識を失っているのかわからない。
だが目覚めると私は必ず正気を取り戻していた。
吸ったガスの効力が抜けたのだろうか...?
思考もあれが嘘と思えるくらいはつきりしている。





私の目覚めに気づき、すぐ蟲達は寄ってくる。
ガスの毒素が抜けているとしても、既に蟲達に作り変えられた身体は
思うように動かさず抗う術もない!!。
繰り返される蟲達のその行為を耐えるしかない状況だった!!。



私は身体の中も外も蟲の体液で汚され続けた。
蟲に埋め込まれた臍のコアがそれを糧に私の体内を作り変え
私の身体は蟲の体液に順応していく。
その影響が蟲の体液で必要な栄養が賄えているようで空腹や
喉の渇きも感じない。

そして最後の仕上げというようにあのガスを吸わされる。
激しい快感と共に思考が狂わせ、私は必ず意識を失う。
そして目覚めるとまた…それを何度も繰り返している。
そして何回目かわからないその行為の後…。
その変化は起きた。

んっ…っ
じゅる…

んっ…っ
じゅる…

んっ…っ
じゅる…

んっ…っ
じゅる…

んっ…っ
じゅる…



「ゲホッ！ゲホッ！うえっぶ…。
 はぁぁぁ…♡はぁぁぁ…♡
 あっ…漏れっ…んぁぁぁ…♡」
 (ぁぁ…もっこれで何回目…？
 蟲の体液…ドロドロおしっこ漏れちゃってる…。
 尿道締まらない…滅茶苦茶にされちゃったよお…。)

「お臍の核…今は心臓みたいに脈動してる…。
 私の体内…今…っ…なるの？」
 (っっっ…全身ドロドロですっ…かなり酷い匂い…。
 中も外も何度も舐められ汚され続けて染みついてる。
 私…このまま…っ…で弄はれる…の…っ…)

あ…まな…♡

ドク…
 ドク…

んんん…



「あ…れ…？私…今回は何ともない…。
意識が途絶えない…？」
（蟲の体液飲まれて…舐められて…
あのガスも沢山吸ったのに…。
頭が嘔みたいにはつきりしてる…。
何度も吸って耐性が付いたの…？）

「蟲が…来な〜」
（でも…拘束はどの程度。
解放する気はな〜みだ〜。
何…ムンな〜ンゲ〜）





ズル...

ズル...

「いや...蟲来てる...?」
また...舐められ...?」
え...?」
「いや...顔を回してな...?」
な...何をやる気...?」



Uzhu

Kil...

Lily



「やっ……んっ……ああ♡
やっ……そんじょ……擦り付けなさいっ♡
んんっ……んんんんっ♡」
（この蟲の生殖器……あっ……熱いっ……。
まさか蟲はこの為に今まで私に準備を？
それが終わったから……
今から孕ませようとしてるんだ……。）

あっ♡
んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡



「あぁっ♡はっ♡はっ♡
これ…はっ…!んんっ♡」
（姿…おかしー!どんどんお腹の奥が疼く…
腰が動いて…膣内が疼いて切なくなる…
絶対嫌なのにあれっ…蟲のおち〇ちん…♡
アソコに…挿入れてほしくて堪らない…!
身体が求めちゃってるっ…!?)



おはっ

スガ...





は...は...♡

は...♡

は...♡

「ああ♡ああ♡♡♡♡♡」
「そんな...蟲のがっ...太いの...一瞬で奥まで...
でも何で...全然痛くない？
熱いので膣内拡げられて
無茶苦茶になってるの...
き...気持ちいい♡...♡」



アッ

「あっ♡んあっ♡あっ♡」

(大きいの…ゆっくり動き出したっ…)

私の膣内…掻き回して…

蟲の体液隔々に塗り込んでるっ…

あ
あ

アッ

アッ…

アッ…

アッ♡
アッ♡

アッ♡





「あきっ♡んおお♡」
「やっ…膣内に精液塗り込まれてるっ…
熱いっ…これ舐められる感覚に似てるっ…
身体みたいだ私のアソコも作り変えてるの…？」

（何か…私の中で膨らんでるっ!?
どんどん熱く…大きくなって…!?）

はっ♡

ゼッ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡





おは

んげん

「あわっ♡ほわっ♡えわっ♡さっ♡」
（膈内も子宮思ひつきの抜げりれっん...
こんなの無理っ...壊れちゃうっ...
お腹貫かれちゃうっ...!）

グワッ♡

グワッ♡





ぐわん

「んぎっ! あはっ♡はっ♡はっ♡はへえええ♡」
（急に激しくっ!）
突かれてるっ♡子宮潰れちゃう♡
こんなにされて…何で気持ちいいのぉ♡）

「はひっ♡はっ♡はっ♡はっ♡ふひやえええ♡♡♡」
（ああ♡…ガス吸ってないのに思考飛んじやいそう…
嘘でしょ…こんな状況で蟲のおち○ちん…
私のアソコに馴染んでくる…っ♡♡
子宮潰れながら精液…子種を求めてる…っ♡♡）

ぐわん

ぐわん!!







グッ!?
グッ! 抜け...

グッ...
グッ...

グッ...

グッ...

「あひっ♡ふえ...」
（何で...もう射精したのに...
全部抜いてくれない...の?）

「ひっ...」

（蟲のおち○ちんから何か
私のお腹に昇ってきて...?!）



「あひっほおっ♡おおも♡」
「これ...まさか蟲の卵...?」
お腹に産みつけられたの...!!
...!!



あま〜

あま〜

あま〜

あま〜

あま〜

あま〜

あま〜

あま〜



あははは
いいえ

アッ

アッ...♡





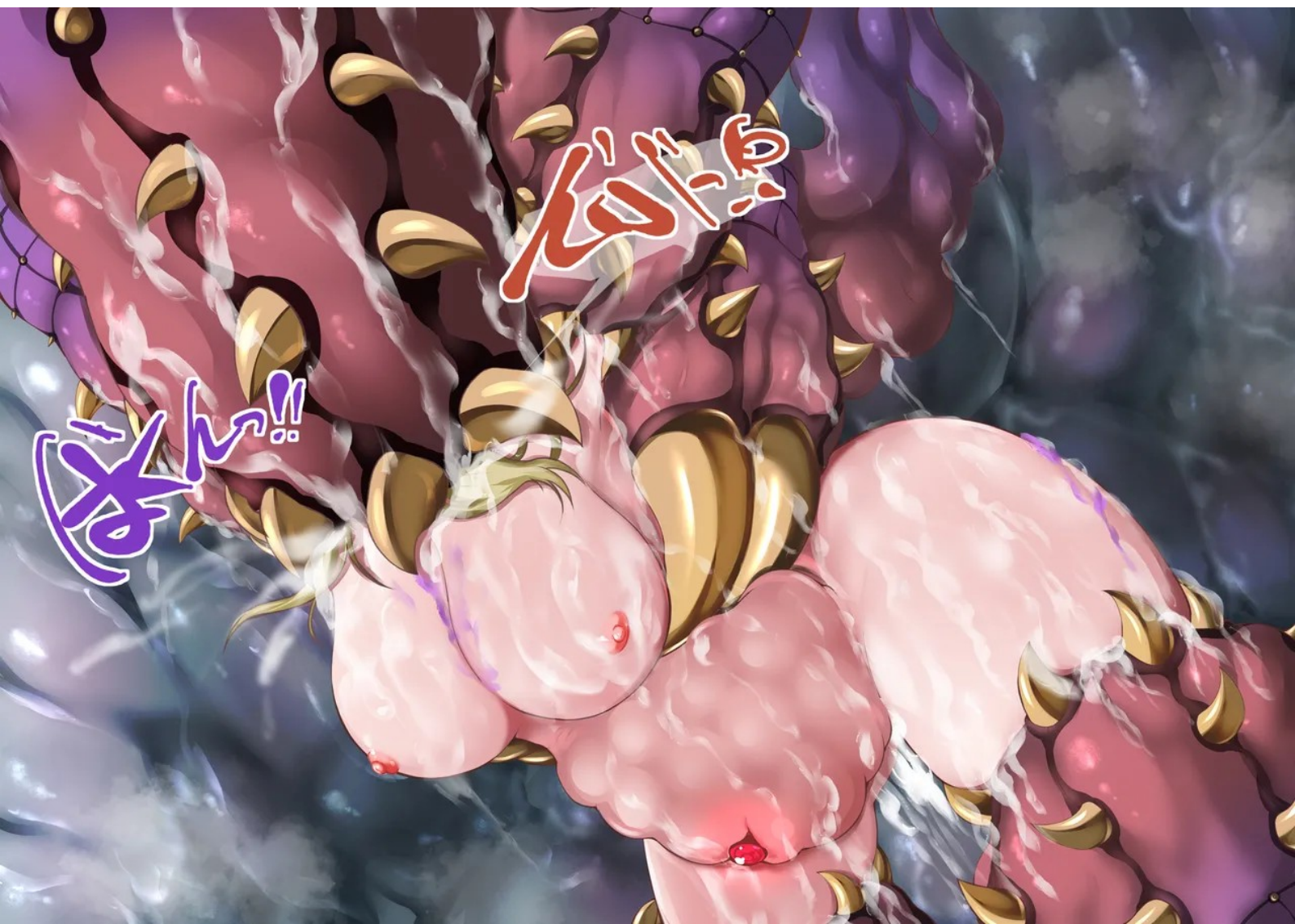
「さっ……全部……轟の……卵……
ドクドク……私のお腹に……
……」
「さっ……さっ……さっ……」

お……お……

ん……

ん……

ん……





(何も見えない...!?
うえっ...この生臭い匂い...
確か蟲とキスした時の...
ううん...大きいせいかわそれより臭い...っ...!!

(これまさか...蟲の口の中
やつ...まさか私の頭...呑み込まれて...!?)

んんん...

んんん...

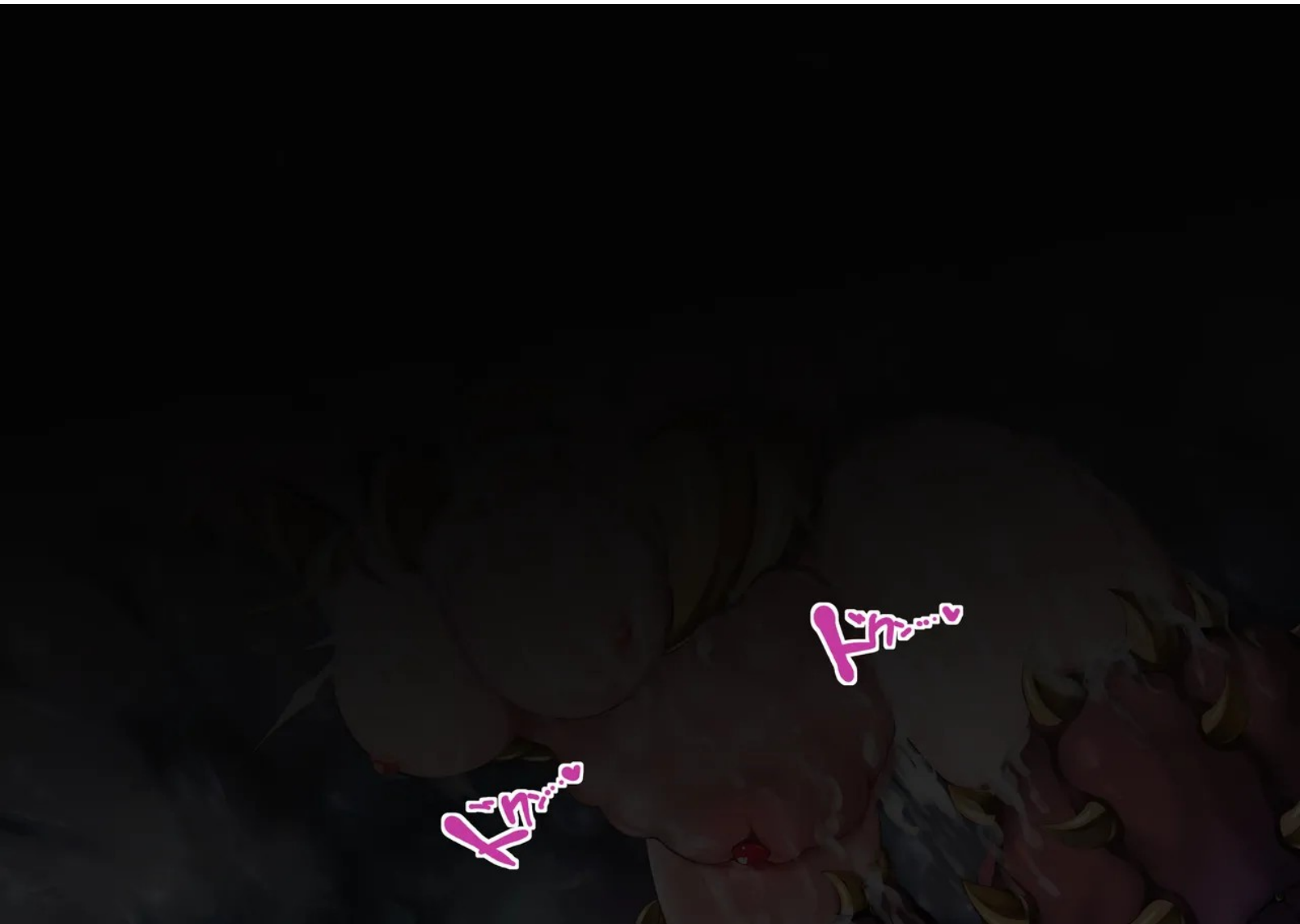
っ!!

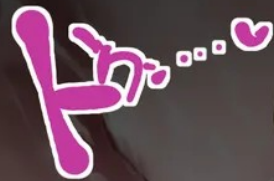


心

神











(ああ♡
蟲の吐息が当たってっ…
お尻に来てるっ…)



(んひいひい♡舌でお尻の穴…
グリグリとじ開けられてるっ…
またあれ出ちやう…やめてええ…♡)

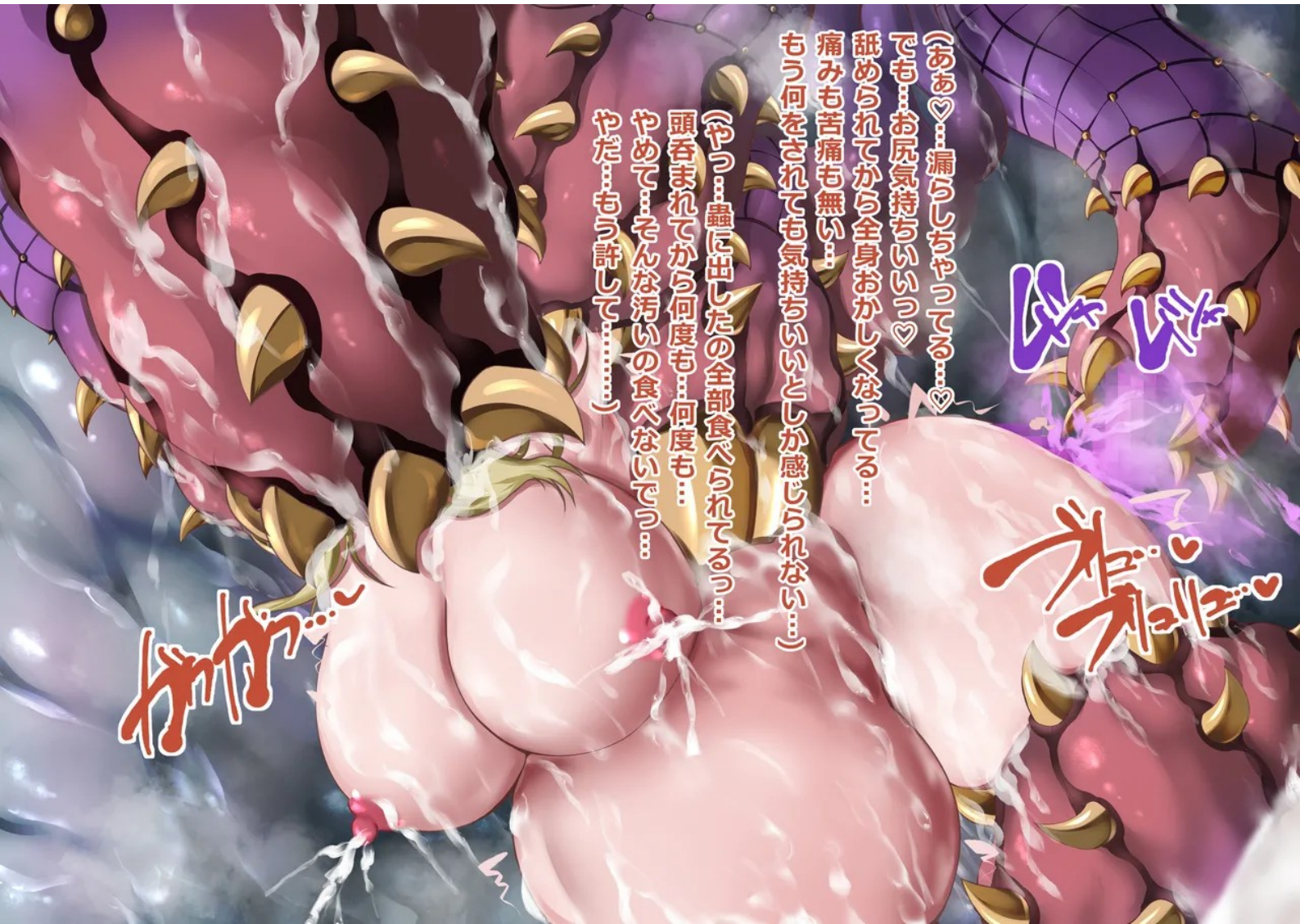
アゲ♡

フ

ズナ…♡

エッ♡





(ああ♡…漏りしちゃってる…♡
でも…お尻気持ちいい♡
舐められてから全身おかしくなってる…
痛みも苦痛も無い…
もう何をされても気持ちいいとしが感じられない…)

(やっ…轟と吐いたの全部食べられた…
頭吞まれてから何度も…何度も…
やめて…そんな汚いの食べないで…
やだ…もう許して…)

びびび

痛♡
やだ♡

やだ…



頭を吞まれ視界を奪われてしばらく経った…。
卵を植え付けられた私は母体として蟲達に世話をされていた。
見えずともお腹の脈動が強まり…
お腹の膨らみが卵の成長を私に伝えてくる。

ここで私は常に蟲の舌から体液を与えられ…
その分蟲達に私の汗や尿…体液を貪られる。
今や排泄物まで…私の尊厳は粉々にされていく。

んんん

ガガガ

おき



んんんん
んんんん

んんんん

んんんん

んんんん



「げほげほっ…あ…」
（頭が…解放された…）
何で…）





「あ…ああ…」

(蟲の口から解放されたのに臭い…
舌から不味い蟲の味が消えない…
口も鼻も隅々まで蟲の体液染みついてる…)

「これが…私の身体…？」

…見えなくてもわかってた…わかってたけど
…うう…

(おっぱい大きくなって熱い…母乳まで…
卵が成長して…今にもお腹が破裂しそう…)



「私…もう駄目…っ…。
全身蟲達に好き放題汚されて…
お腹にこんなに卵産みつけられて…
身体も蟲に作り変えられてる…。
仮に助かっても…多分生きていけない…。」





「あううっ...お腹でっ...卵弾けて...
はひっ♡んひらひら♡」
(嘘...お腹の中で卵...産まれてる...
やだっ...やめてええ...)



「んぐっ……うらうらっ……♡」
（卵産まれた…産まれちゃった…
蟲の赤ちゃん……ああ……
私のお腹の中で蠢いてるよお…）



「んぎいいうっ♡暴れちゃ...
産みたくな...っ♡あひっ♡
大人しくして...んおおお♡」

(蟲の赤ちゃん...出ようとしてる...
まだ産まれてない卵かき分けて
膣内通ってきてる...!)

んっ♡

んっ♡

んっ♡





お...お...

「いやっ...いやいやいやあああ...」
（蟲の赤ちゃん産んでる...）
産んじゃってさっさっ...」

キー!

キー!



「ほひんっ♡そんっ♡やっ…
んっ…ひらっ♡らっ♡らっ♡…」
(やっ…膈内で引っかかって暴れてるっ♡
あんっ♡はひっ♡暴れないでえー)

セキっ♡

ア?キ?

ハハ♡
ハハ♡

セキっ♡



「あぎっ…!!この感覚は…!!
またお腹で卵が…生まれたの…?」

(蠢いでる…まさか膣内だ?
待って…ごないで…
まだ待ってええ…!!)

んっ!!

キャー!

キャー!

ズズ…

んっ!!
んっ!!





たっ...
たっ...
たっ...

たっ...
たっ...

たっ...

たっ...

たっ...

たっ!

たっ

たっ...



「あ……ああ……♡」
（私……産んだっ……産んじやったっ……
蟲の赤ちゃん達……ああああ……）



「へ……そんな……どうして？
蟲の赤ちゃん……
いっぱい産んだのに……
お腹……全然変わってない……」

(まだお腹……蟲の卵沢山……
……まだ産まれる……の？
あと何匹産まないといけないの……?)

もういっせ……

お……

フ……

ん……♡



「あ……ああ……………
もう嫌だ！ーいやあー……っつ！ー
お願い放してええ！
これ以上蟲の赤ちやんなんて産みたくないっ！
出して！ここから出してえええー……！」

ギョ

ギョッ！

ギョッ！

お母！



「んっっっ…やめっ…
んああ…はああ♡」

(この蟲達…まさか私が産んだ…!?
おっぱい乱暴に吸い付かないでっ…!!
ああ♡…駄目え♡離れてえ…♡
気持ちよくなっっちゃう…っ♡)

んっ♡

んっ♡

んっ♡







「ほひっ♡...おっばい...はへええ...♡
お願...い...い...♡
もお...気持ちよく...しないれえ...
...許し...へえ...♡」



「あ……あひひひっ♡」

(舌で乳首広げられてるっ!!
おっぱいも壊れちゃう…
これ以上私の身体おかしくしないでっ!!
やめてええ——っ!)



「う……ん……」

おっぱいはいつひえ……っ!?

やらあ……やらあぁあー!」

(蟲の赤ちゃん……)

おっぱいに入ろうとしてるの……!?

無理っ……そんなの無理いいい!?)

バカ…
ゲッ…
ヒッ…



「SOUND EFFECTS——♡」

(蟲の赤ちゃん達…お願い早く出て行ってっ！
私のおっぱいの中であっ…何してるのぉ…!)



びしょっ…♡

びしょっ…♡

びしょ

びしょっ…♡



セクッ

セクッ

ヒン

びる







「う……う……おっほいが……
……しよんなごと……いやっ……
いやあああ——っ——」

(んひやああ♡おっほい熱いらっ……
中で沸騰してるみたいだに熱いよお……
はひっ♡苦しっ……破裂しちゃうっうっうっうっ!!)

ドクドク……♡

ゼン……♡

ゼン……♡

「おっぱい…んぎいらいん!
おほおおおっ♡」

(おっぱいの濃くて熱いドロドロミルク…
沢山出ちゃってみるぅぅぅ♡
ああ…全然止まらないうっ…!)





ほい!

か!



「あっ…あ…ああ♡」
（私の全部…おっぱいに集まって…
全部ミルクにされてるみたい…
中身吸われてくぅ…意識が…遠のいてえ…）

「…あ…ああ♡♡♡」
（ミルク止まらないっ…干からびちゃう…
そっか…このまま私…楽になれ…るんだ…
蟲達の…赤ちゃんの…栄養源になりな…がら…
これで…やうと…お…）

かっかっ…

え…♡

お…♡

ぐ…♡

ぐ…♡





「がほっ♪…つぶらっ♪♪♪
ごほほっ♪…すおおお…♡」

（蟲の体液勢いよく注ぎ込まれてっ…あのガスもっ…
っ!?…身体が潤って…意識も引き戻されてく…!?
まさかこの蟲達…私を生かそうとしているの…??
こんなことしないであっ…もう嫌なのっ!
やめて…っ…楽にしてええ…!）

ドク…♡

ドク…♡

ダ

ドゼ!

ドク…♡



「あプアあ…
んく♡…んくっ…♡ちゅらうらうら♡」

(ああ…何でこの汁…急に美味しく…
ガスのこの甘い香りも…ああ…好きいい♡
もう嫌なのに…本能がこれを求めて拒めないっ…
枯れる寸前だった身体に…染み渡るうら…)

ドク…♡

ドク…♡

ドク…♡



「あ…アあ…!?」

(さっきまで死にそうだったのに…
もう何ともない…なんだか…身体も変わって…!?
それに何で…どんなに気持ちよくなっても
全然狂えない…最初にカスを吸った時みたいに
頭の中飛んじやうくらいなああ感覚が…っ…!)

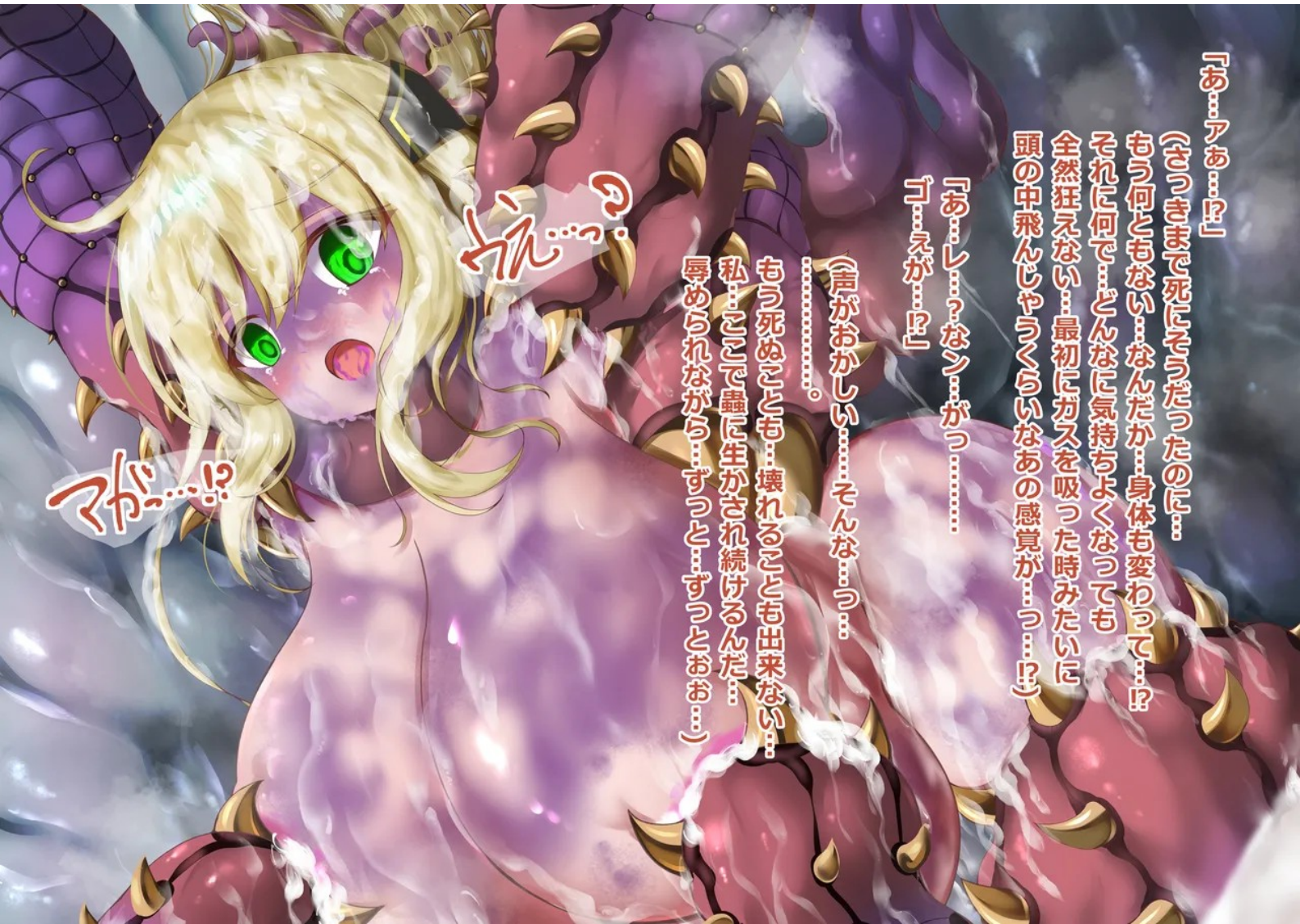
「あ…し…っ…なん…がっ……
ゴ…えが…!?」

(声がおかしい…そんな…っ…
……………)

もう死ぬことも…壊れることも出来ない…
私…ここで蟲に生がされ続けるんだ…
辱められながら…ずっと…ずっと…おお…)

ん…っ…?

アが……!?





ズン!

「アハハハ」
「目が……熱い……」



「...何...見...?」

「...」

「...」



「いやアア…っ…!?
アガ…ああ…!?」

(見えない…何も見えない!?
蟲も…光すら感じれない…っ…!)

アアッ



「アぎっ…来ハアあああ…♡」

（お腹でっ…卵また産まれて…

そうだ…私のお腹の卵…

沢山…残ってたんだ…っ…）

「やっモお産ビたくっ…

…生マれっリユウラウ♡

フヘええ♡えうアアあ♡」

セクン

ア…

ハ…

ハ…

セ…







アハ...カ...
オハハハ...





キョウキョウキョウ

キョウキョウ

ズズズ

キョウキョウ

キョウキョウ

ズズズ



(あ……ああ……終わりのない地獄……
何も見えない……動くことも出来ない……)

ただ醜い声で喘ぐ事しか出来ない……
死ぬことも……抗う事も出来ず……
狂って当然の快樂にも狂えず生殺し……)

(ここで私は永遠に弄ばれる……
蟲の苗床として……蟲の玩具として……)





(ああ…卵おもまた産みつげええ…へえ…
まだ全部…産んでな…いいいのおお
はひいひい…♡)

アッ

アッ

ゴッ

ゴッ







ギィッ...

ギィッ...♡

ギィッ...♡

ギィッ...♡

ドゥッ



ギ...

ギィヒヒヒ...

ギー 卍

ギ

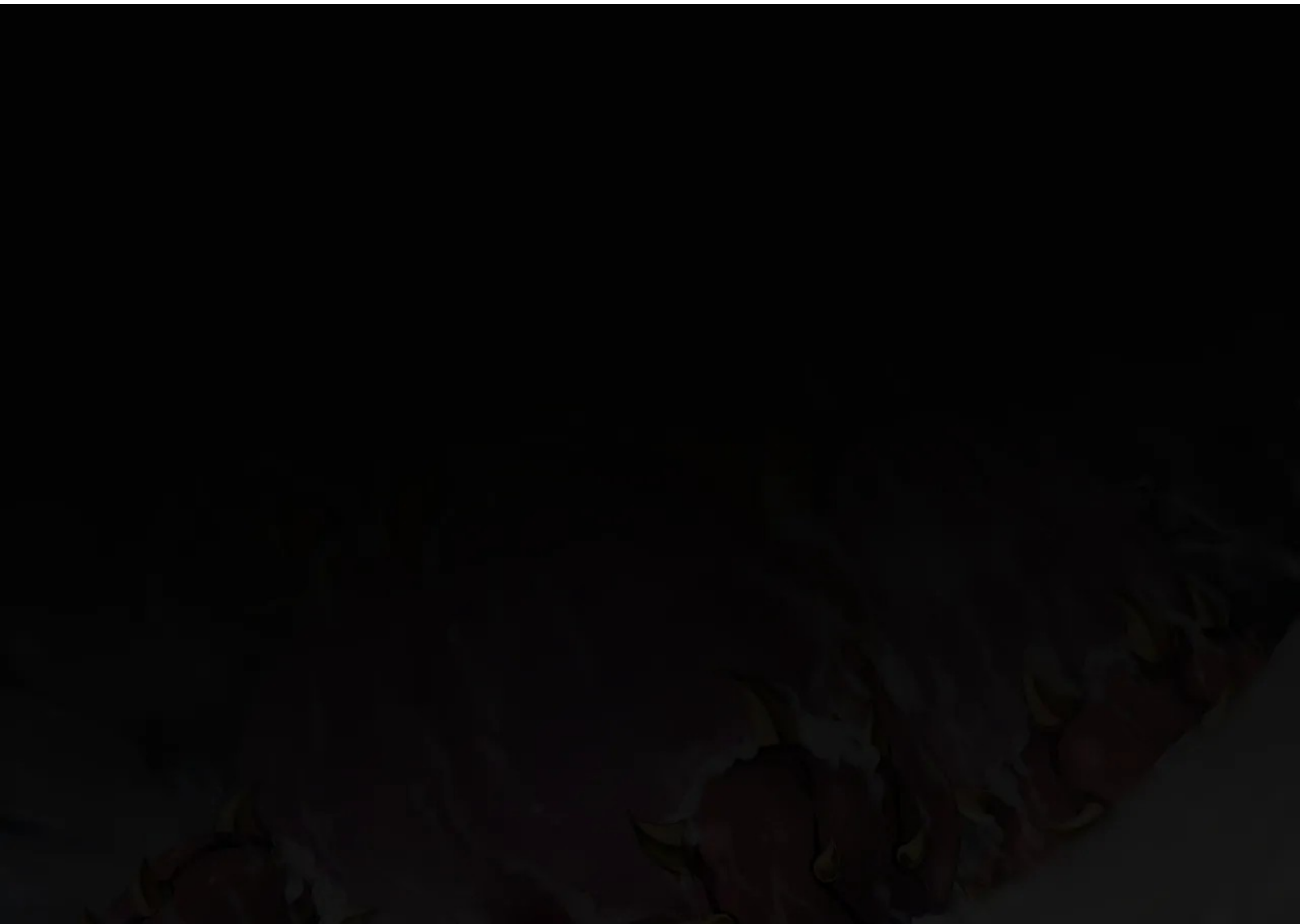
(誰カ...だれでモイイ
たじゆけ...で...タジユ...へへ
た...じゆ...
死...ニタ...殺シ...デ...)

カッパ

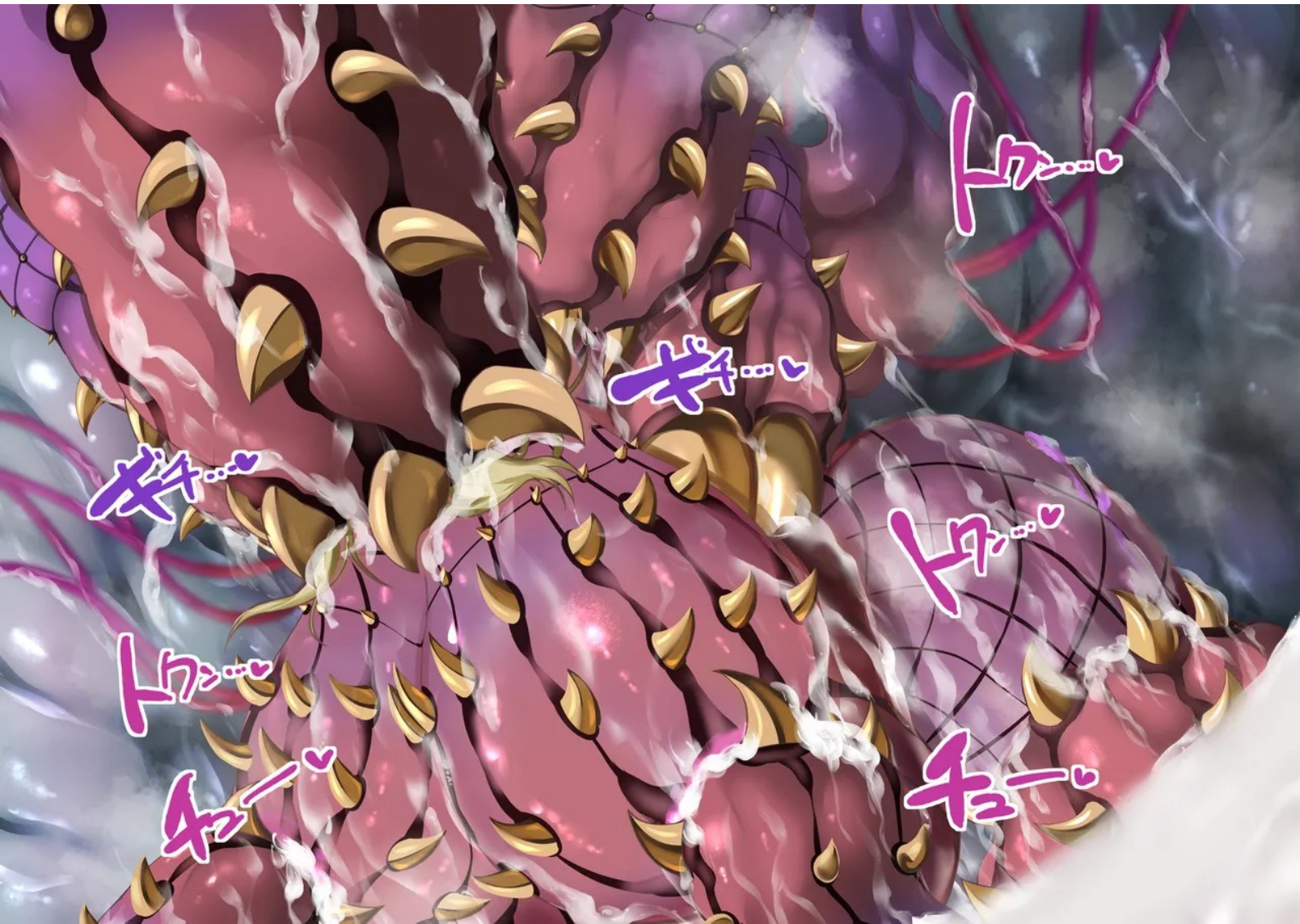
ギハヒ...

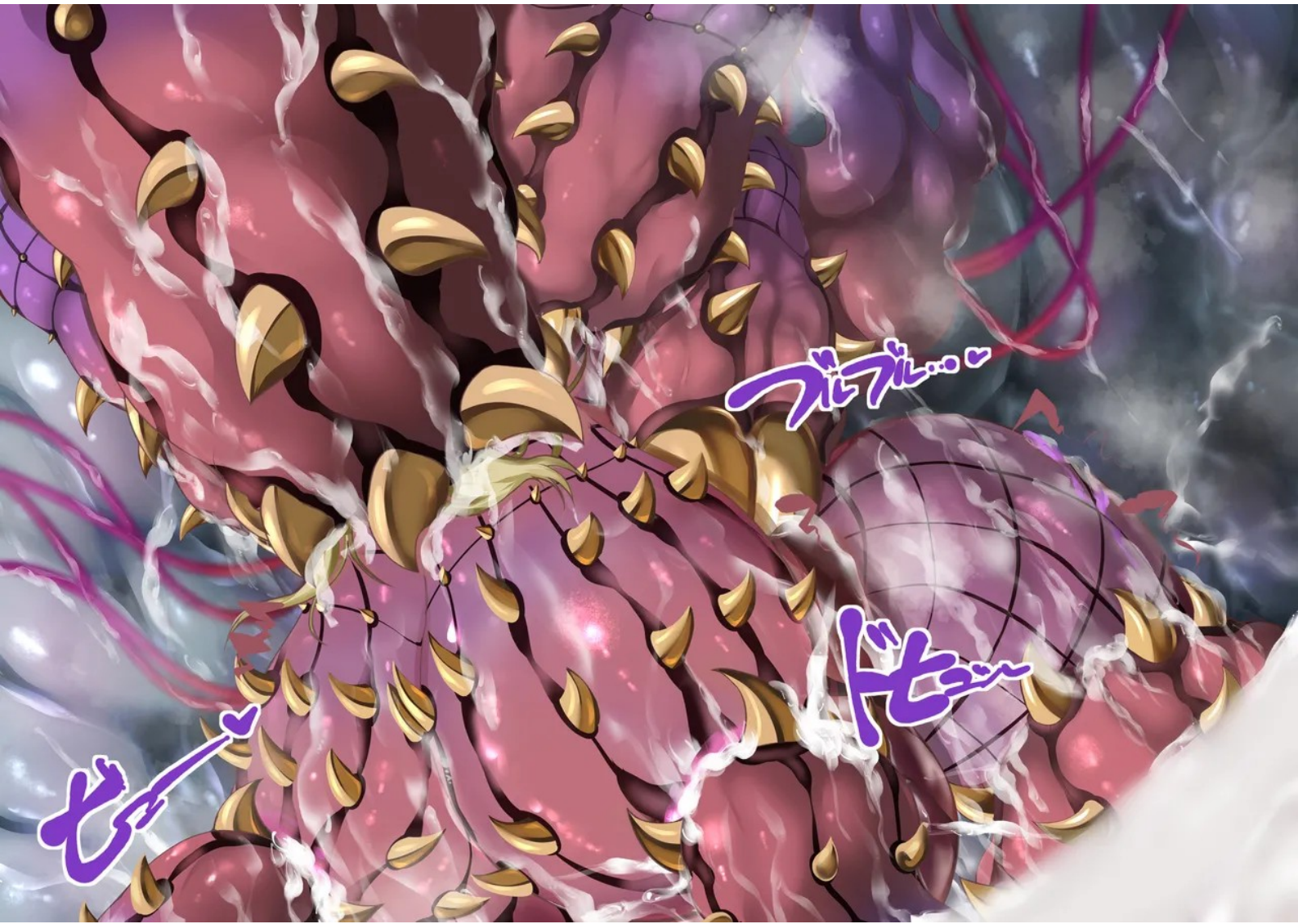








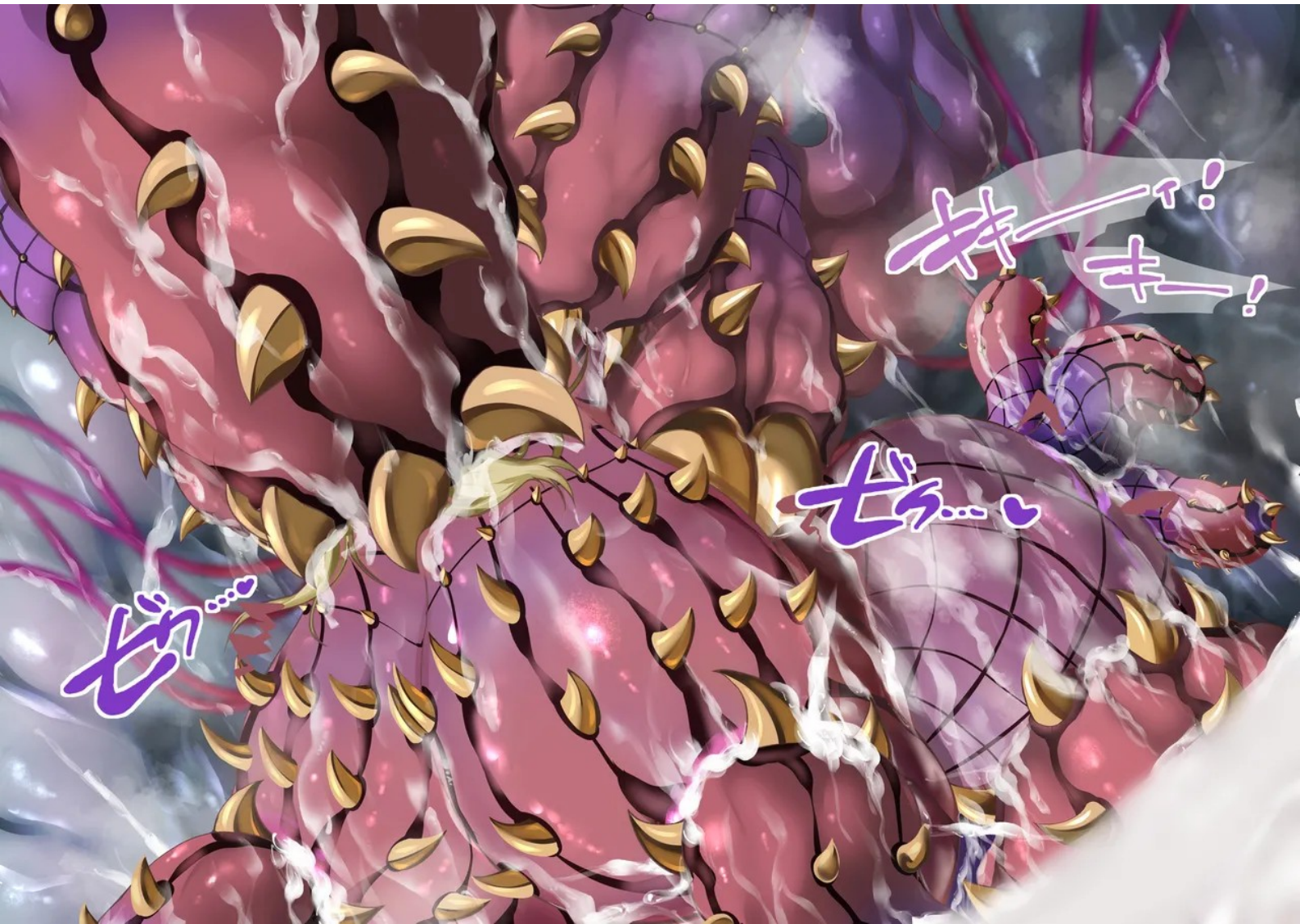


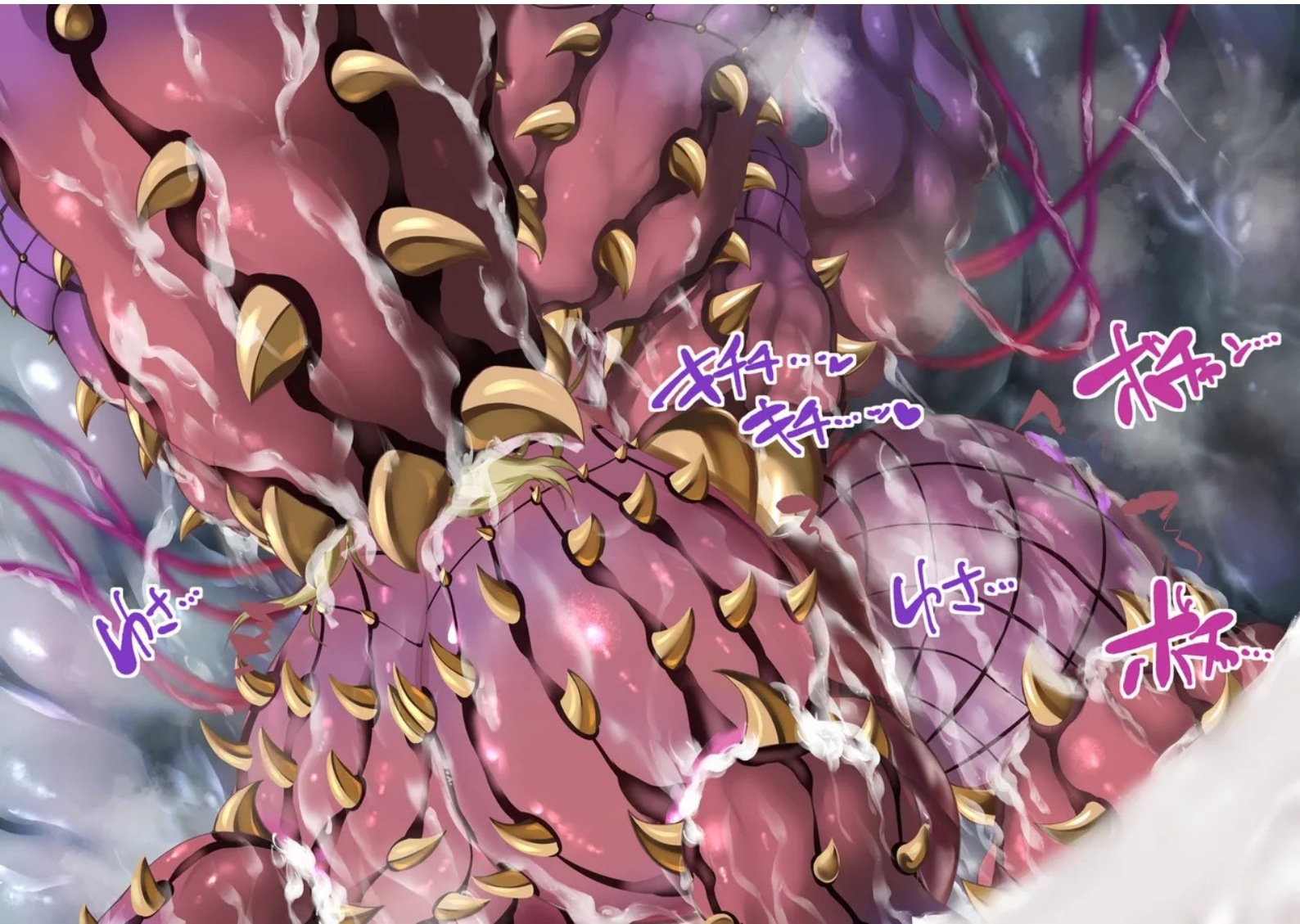


سبح

...الحمد

سبح







モロ...

モロ...モロ...イ...

モロ...

(モ...ユル...ジテ...
ゴ...ro...シde...)



ギ...ギ...

ズズ...

ギギ...

ズズ...

ギ...

ギ...







ギィ...ニ...
ホ...グッ...

ゴッ...♡

アッ

グッ

グ!

グ



甘み
おボキィ〜♡

ん？

ん？



アキイエ...♡
オギオキ...♡

グハ...
アホ...
アホ...





レイのメデューサワーム苗床化レポート01

この巨大なメデューサワームはメスを生かしたまま呑み込み、体内で捕らえながら自らの仔を植え付ける器官として取り込む習性がある。いくつもある肉壁の小部屋のような体内袋の中にメスを収容し、その肉体を自らの器官として最適化させていく。

レイも呑み込まれ今回そこに加えられた一人。意識を奪われ、腰と首、髪を固定され体内袋に幽閉されている。

・レイの四肢を呑み込んでいるのは既に囚われている別の母体が産んだ仔が成長した姿。



レイのメデューサーワーム苗床化レポート01

・捕らえたメスの反抗への対処

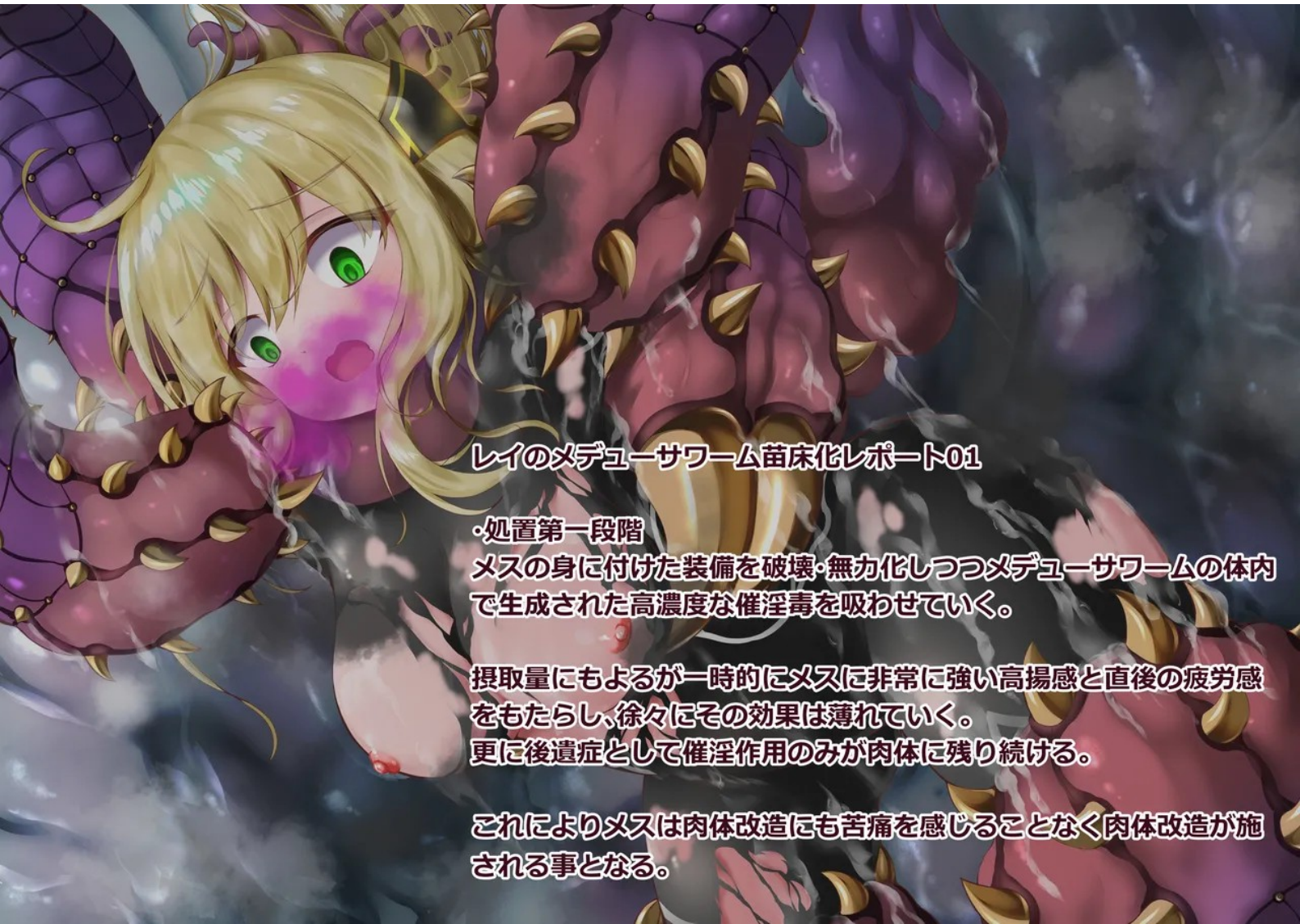
メデューサーワームが口から放つ強力な毒霧。

抵抗するメスに対してはこれを吸わせることで無力化する。

感覚や意識は奪わず、肉体の力や魔法の力のみを麻痺させる。

後遺症等はなく通常数時間で回復する。

肉体改造がある程度進行すれば必要なくなる為、基本は最初のみ使用される。



レイのメデューサワーム苗床化レポート01

・処置第一段階

メスの身に付けた装備を破壊・無力化しつつメデューサワームの体内で生成された高濃度な催淫毒を吸わせていく。

摂取量にもよるが一時的にメスに非常に強い高揚感と直後の疲労感をもたらし、徐々にその効果は薄れていく。
更に後遺症として催淫作用のみが肉体に残り続ける。

これによりメスは肉体改造にも苦痛を感じることなく肉体改造が施される事となる。



レイのメデューサワーム苗床化レポート01

・処置第一段階

装備を除去し、催淫毒が効力が働いてきた段階で直接的な肉体改造を始める。

蟲達はメスの汗(老廃物や排泄物も含む)も好み、全身を舐める。

快感や絶望感等の負の感情を感じる事でその味は一層極まり、極上の味へと進化する。

そうして同時に唾液や汁を染み込ませ、拒否反応が起きないように蟲の遺伝子をゆっくり馴染ませていく。

臍には予め命の源となる蟲の核が埋め込まれる。

メスの生命維持だけでなく内臓器の変化を進める為のもの。

尻穴は一時的に栓を施し、処置の際に死滅した内臓を吸い取り食らう。

この時メスは尻穴を舐められている程度にしか感じていない。

準備が終わると蟲の体液を注がれると食道を含め臓器を一気に作り変える。

心臓も失い一時的に死体の様な状態になるが、新臓器生成までは臍の核により命は繋がれている。

催淫毒のおかげでメスにとっては多少の違和感しかない。

メスの排泄器官は餌の味を落とさないよう個別で処置が施される。



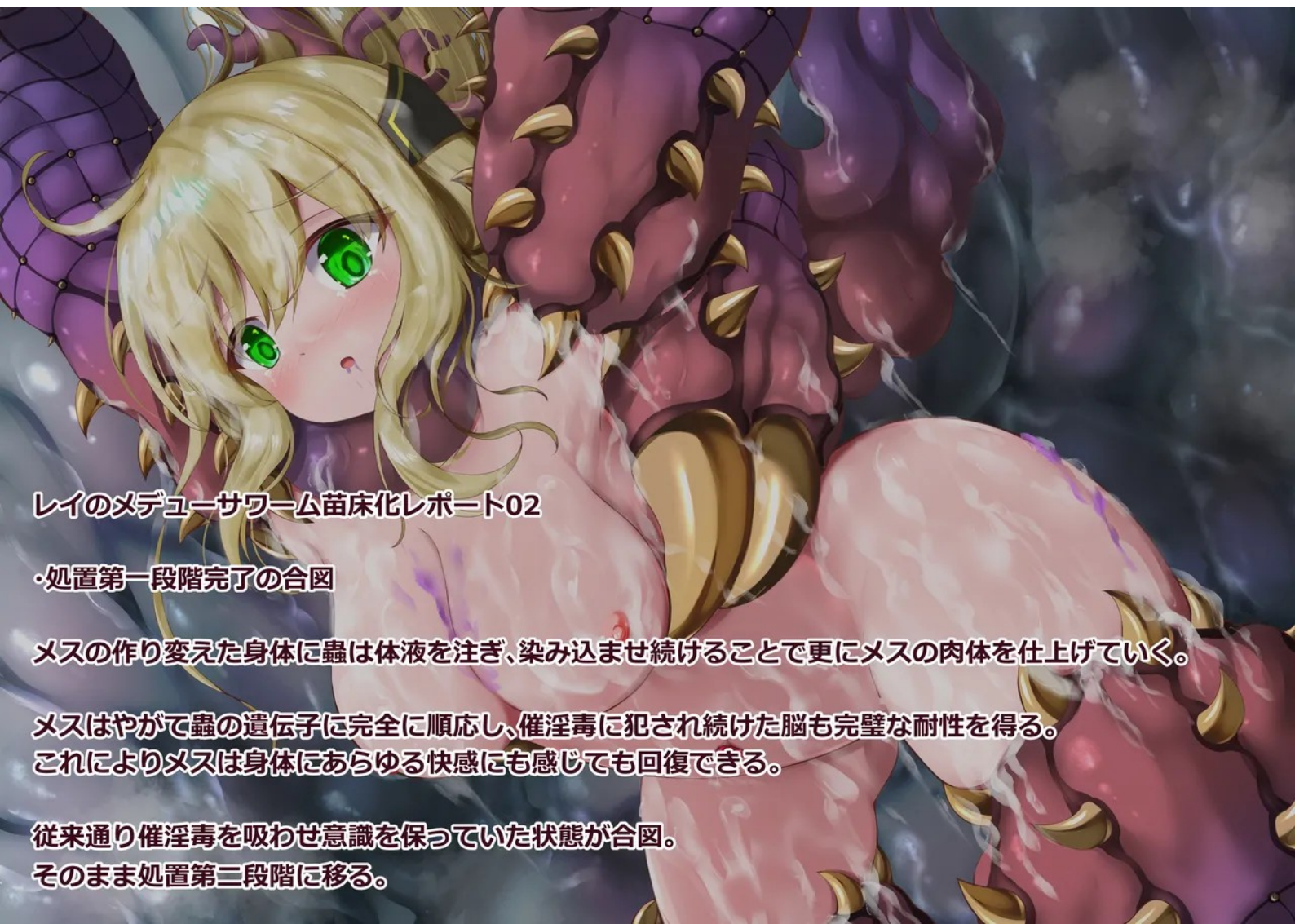
レイのメデューサワーム苗床化レポート01

・処置第一段階

仕上げにメスには催淫毒を限界寸前まで吸わせることで一時的に改造は完了となる。催淫毒の肉体的影響は後遺症として残り続けるが、精神的影響は目覚めと共に消え本来の自我を取り戻す。これはメスの絶望感を常に感じさせるため、餌製造器官として味を損なわない為の処置である。

外見的には変化はないが、現時点で内臓は大半が蟲化しここで生きる環境が整う。無理矢理意識を戻すことはせず、休ませ同時に蟲の遺伝子に適応させていく。

メデューサワームの仔達が自らの体液を注ぎ染み込ませ、蟲の遺伝子を肉体に馴染ませていく。



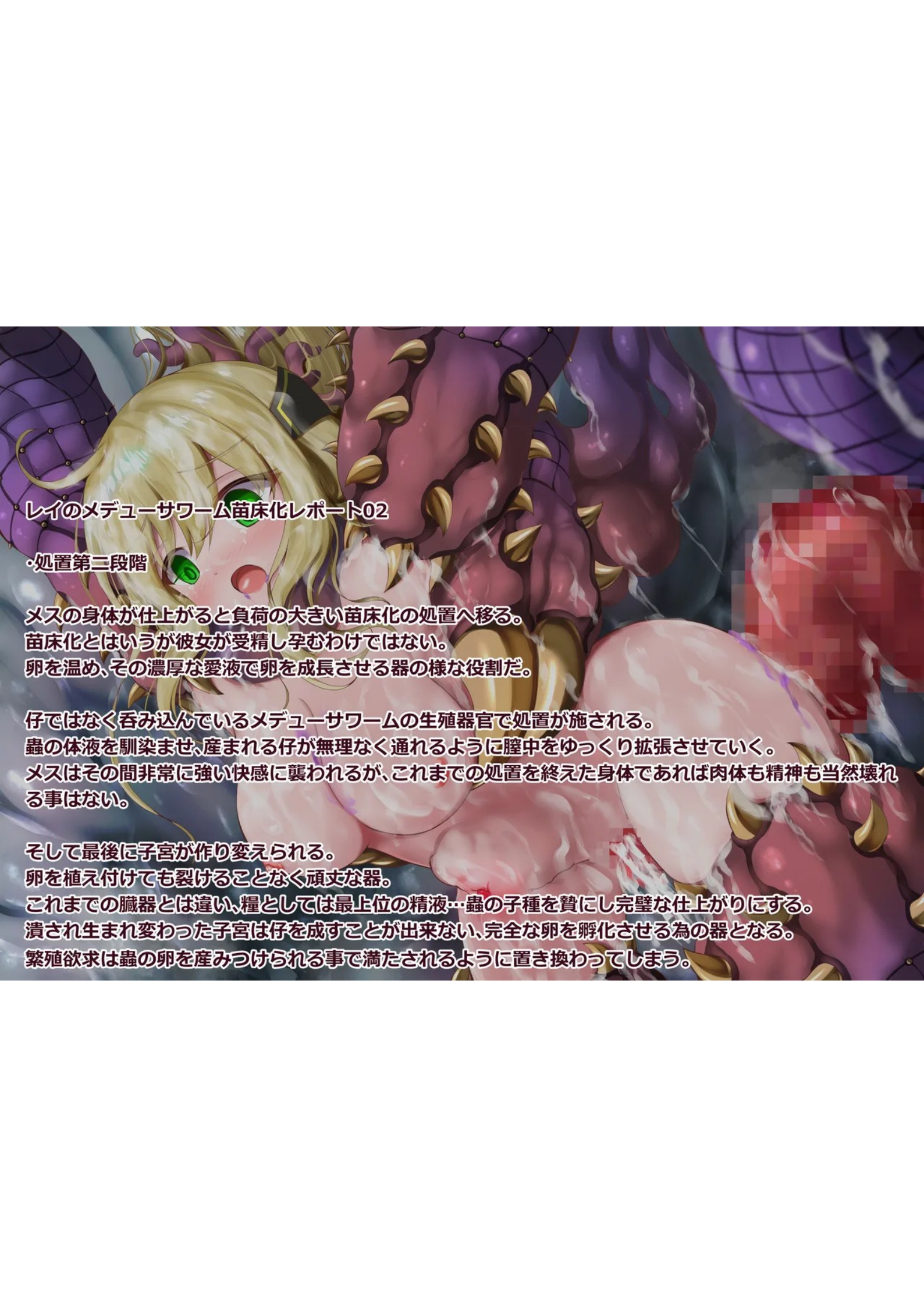
レイのメデューサワーム苗床化レポート02

・処置第一段階完了の合図

メスの作り変えた身体に蟲は体液を注ぎ、染み込ませ続けることで更にメスの肉体を仕上げていく。

メスはやがて蟲の遺伝子に完全に順応し、催淫毒に犯され続けた脳も完璧な耐性を得る。
これによりメスは身体にあらゆる快感にも感じても回復できる。

従来通り催淫毒を吸わせ意識を保っていた状態が合図。
そのまま処置第二段階に移る。



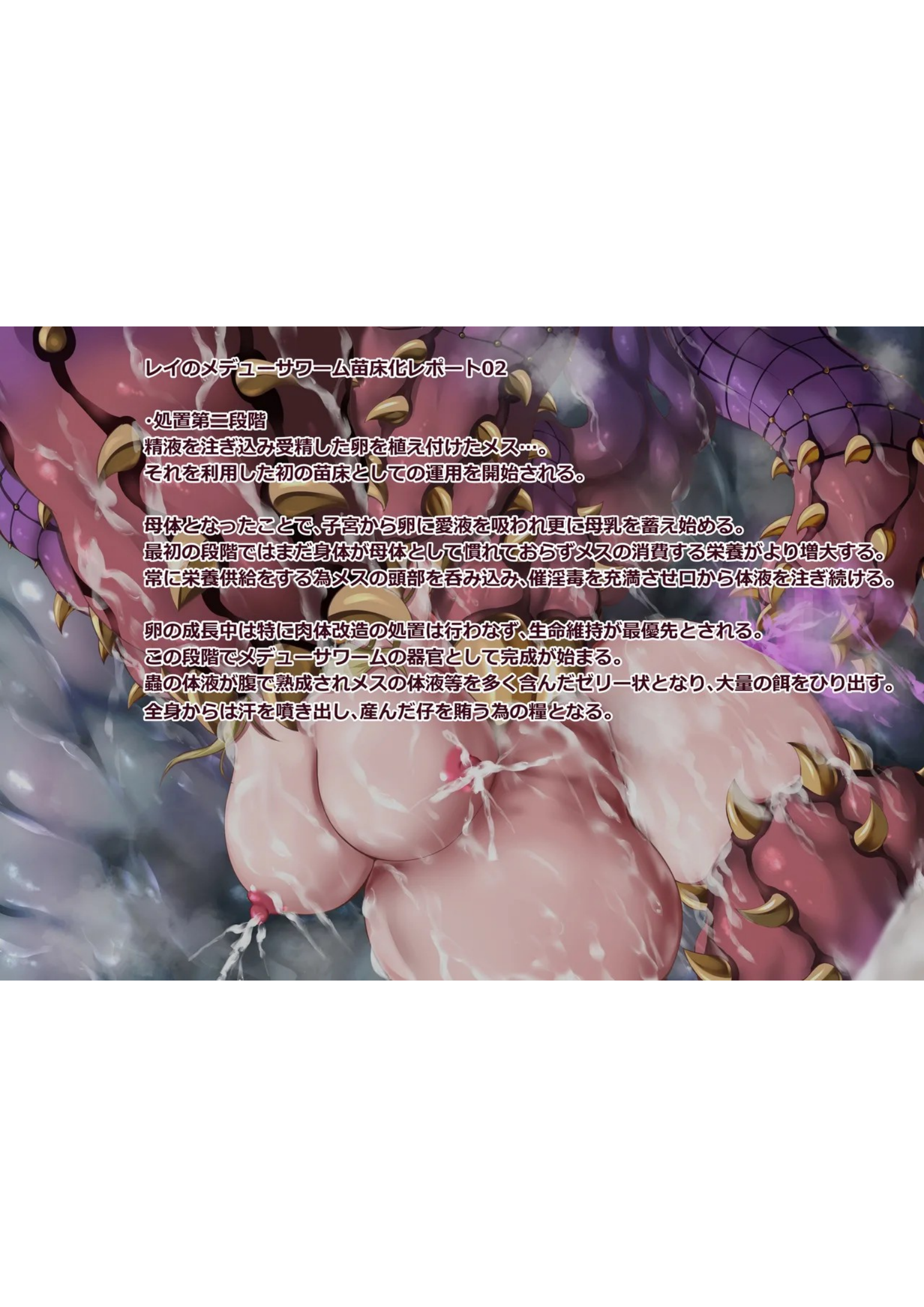
レイのメデューサワーム苗床化レポート02

・処置第三段階

メスの身体が仕上がると負荷の大きい苗床化の処置へ移る。
苗床化とはいうが彼女が受精し孕むわけではない。
卵を温め、その濃厚な愛液で卵を成長させる器の様な役割だ。

仔ではなく呑み込んでいるメデューサワームの生殖器官で処置が施される。
蟲の体液を馴染ませ、産まれる仔が無理なく通れるように腔中をゆっくり拡張させていく。
メスはその間非常に強い快感に襲われるが、これまでの処置を終えた身体であれば肉体も精神も当然壊れる事はない。

そして最後に子宮が作り変えられる。
卵を植え付けても裂けることなく頑丈な器。
これまでの臓器とは違い、糧としては最上位の精液…蟲の子種を贅にし完璧な仕上がりにする。
潰され生まれ変わった子宮は仔を成すことが出来ない、完全な卵を孵化させる為の器となる。
繁殖欲求は蟲の卵を産みつけられる事で満たされるように置き換わってしまう。




レイのメデューサーワーム苗床化レポート02

・処置第三段階

精液を注ぎ込み受精した卵を植え付けたメス…。
それを利用した初の苗床としての運用を開始される。

母体となったことで、子宮から卵に愛液を吸われ更に母乳を蓄え始める。
最初の段階ではまだ身体が母体として慣れておらずメスの消費する栄養がより増大する。
常に栄養供給をする為メスの頭部を呑み込み、催淫毒を充満させ口から体液を注ぎ続ける。

卵の成長中は特に肉体改造の処置は行わず、生命維持が最優先とされる。
この段階でメデューサーワームの器官として完成が始まる。
蟲の体液が腹で熟成されメスの体液等を多く含んだゼリー状となり、大量の餌をひり出す。
全身からは汗を噴き出し、産んだ仔を賄う為の糧となる。




レイのメデューサーワーム苗床化レポート02

・処置第三段階完了

子宮の中で卵がいくつか孵化を始めメスの体外へ産まれ出る。

仔により徐々に膣中も拡がり始める。

やがて数匹を一気に産み落とすようになり、メスは苗床として完成する。

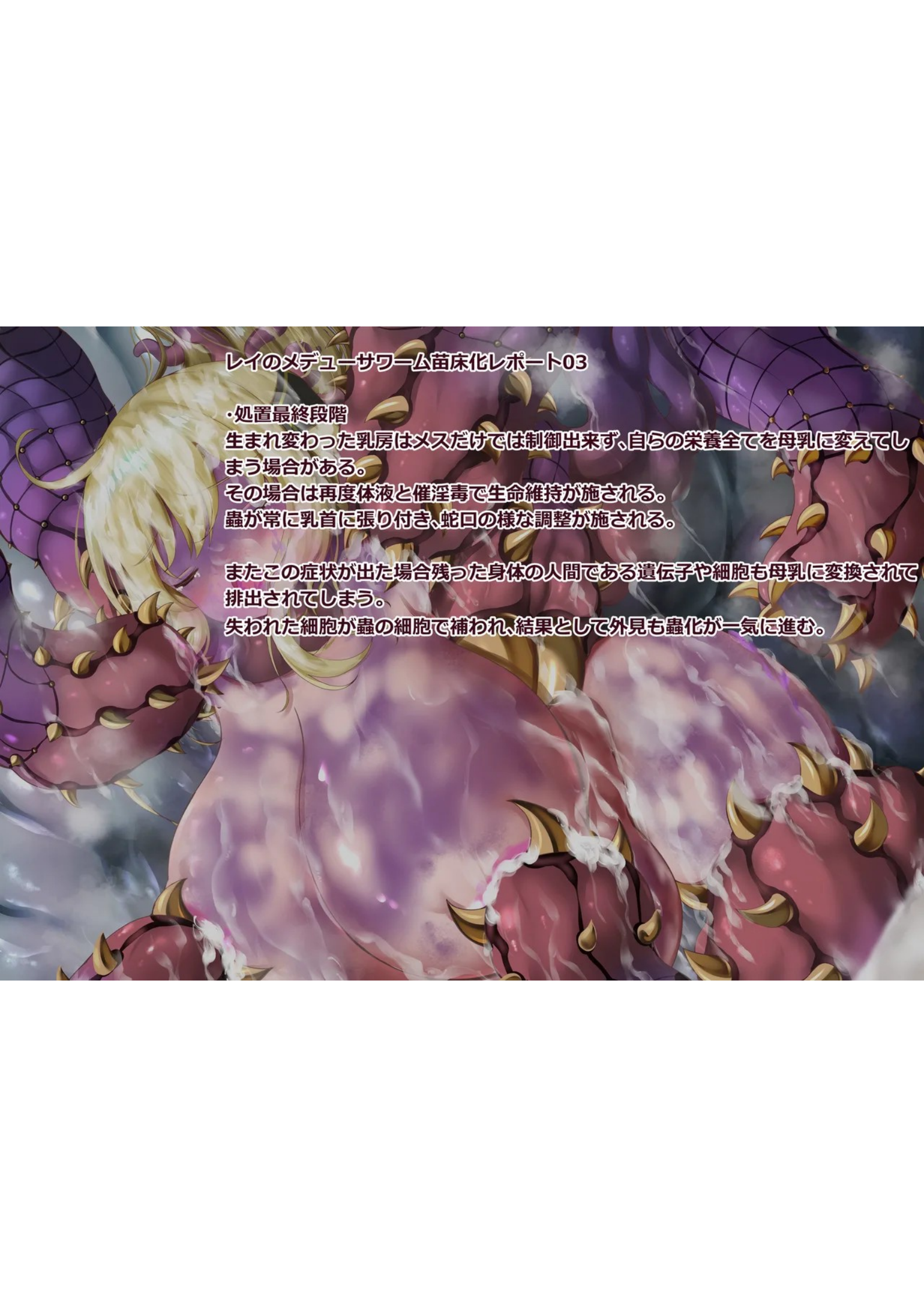


レイのメデューサーワーム苗床化レポート03

・処置最終段階

苗床化を終え最後に活性化した胸の改造が始まる。

母乳の味と量…両方を極限まで高める為、産んだ最初の仔が中に入り込み寄生する。乳房内部に入り込むと蟲の仔はメスの新たな乳腺器官として形成され、無尽蔵に母乳を生成するミルクサーバーとなる。



レイのメデューサワーム苗床化レポート03

・処置最終段階

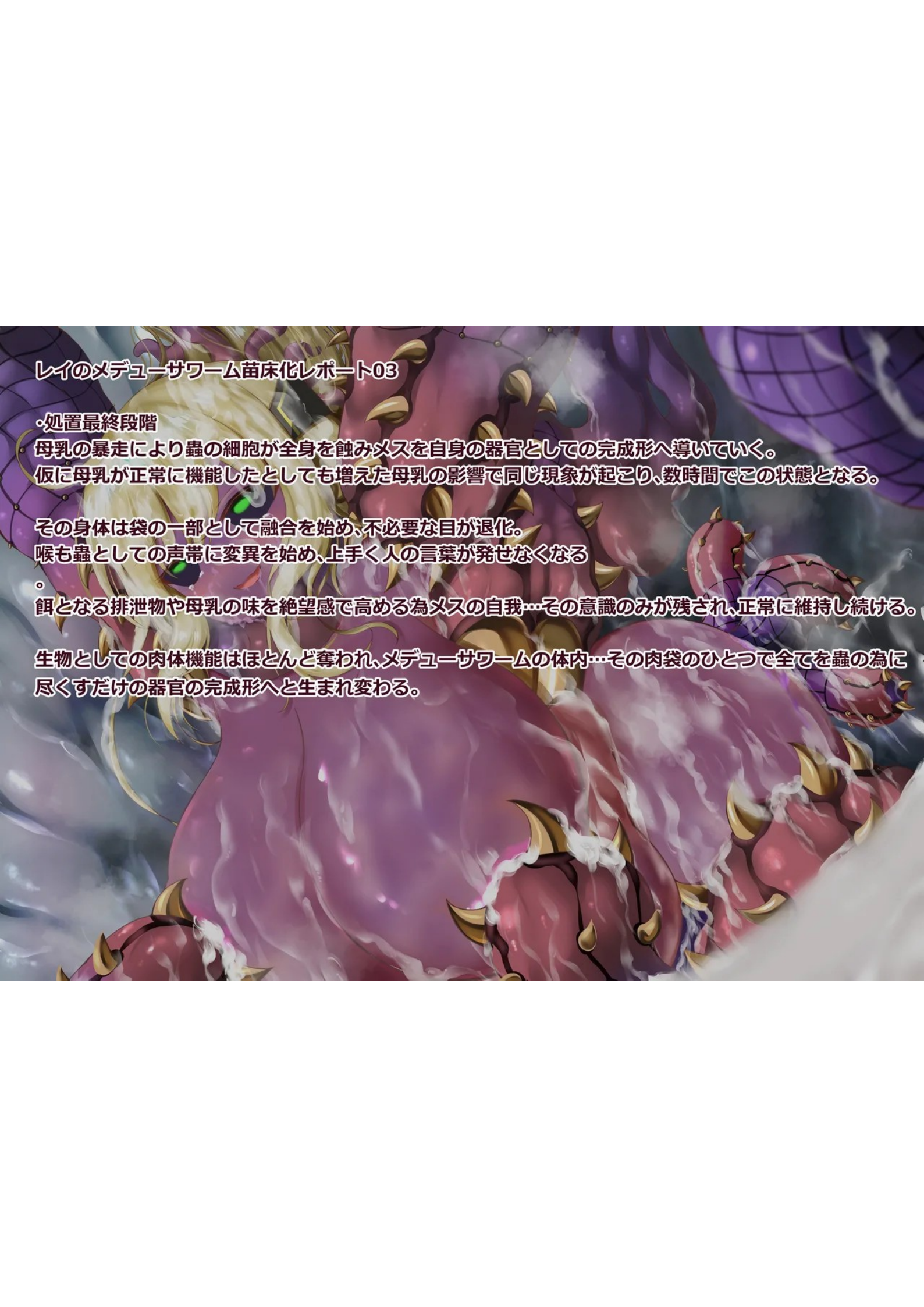
生まれ変わった乳房はメスだけでは制御出来ず、自らの栄養全てを母乳に変えてしまう場合がある。

その場合は再度体液と催淫毒で生命維持が施される。

蟲が常に乳首に張り付き、蛇口の様な調整が施される。

またこの症状が出た場合残った身体の間人である遺伝子や細胞も母乳に変換されて排出されてしまう。

失われた細胞が蟲の細胞で補われ、結果として外見も蟲化が一気に進む。



レイのメデューサワーム苗床化レポート03

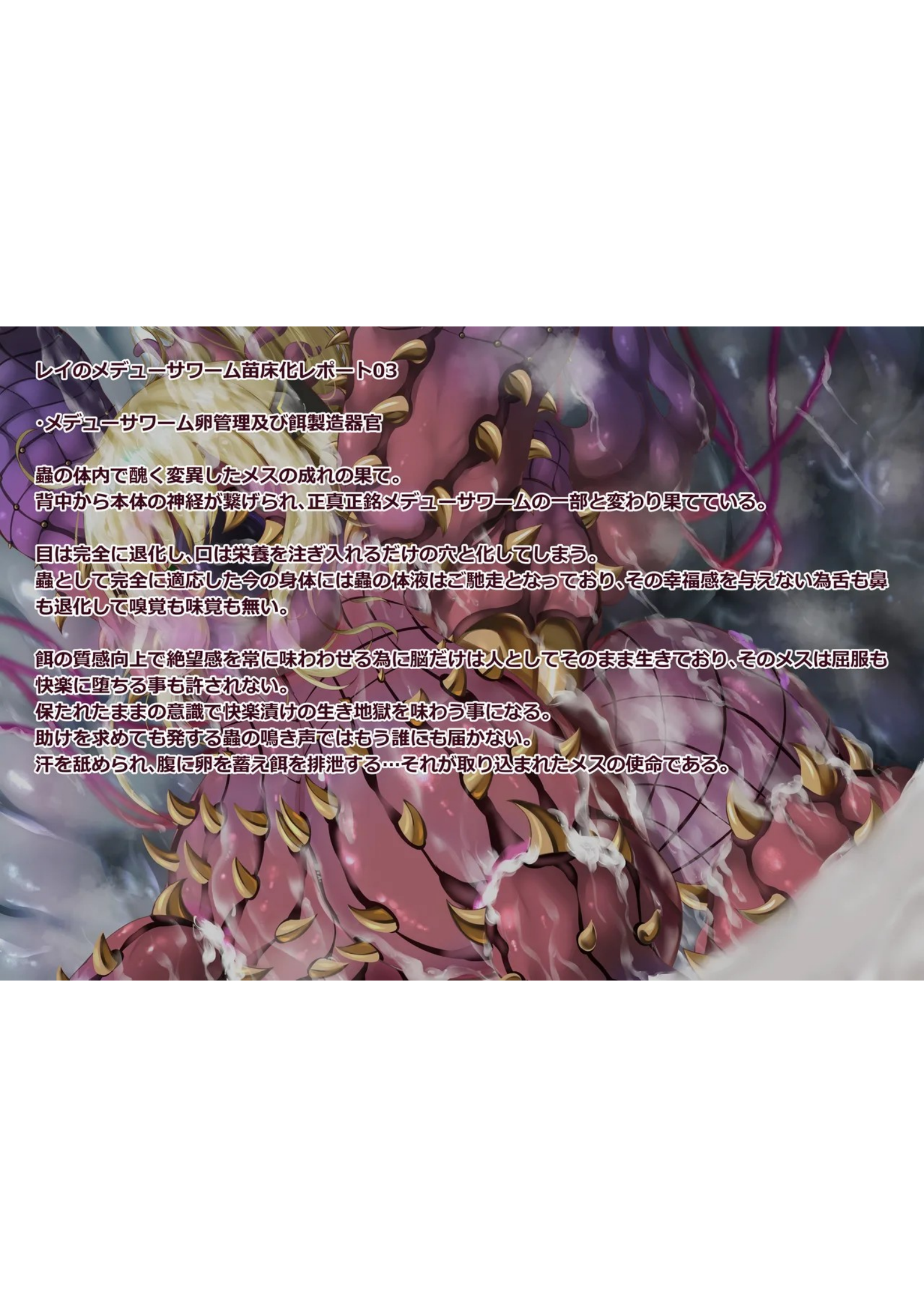
処置最終段階

母乳の暴走により蟲の細胞が全身を蝕みメスを自身の器官としての完成形へ導いていく。
仮に母乳が正常に機能したとしても増えた母乳の影響で同じ現象が起こり、数時間でこの状態となる。

その身体は袋の一部として融合を始め、不必要な目が退化。
喉も蟲としての声帯に変異を始め、上手く人の言葉が発せなくなる

。餌となる排泄物や母乳の味を絶望感で高める為メスの自我…その意識のみが残され、正常に維持し続ける。

生物としての肉体機能はほとんど奪われ、メデューサワームの体内…その肉袋のひとつで全てを蟲の為に
尽くすだけの器官の完成形へと生まれ変わる。



レイのメデューサワーム苗床化レポート03

・メデューサワーム卵管理及び餌製造器官

蟲の体内で醜く変異したメスの成れの果て。
背中から本体の神経が繋がれ、正真正銘メデューサワームの一部と変わり果てている。

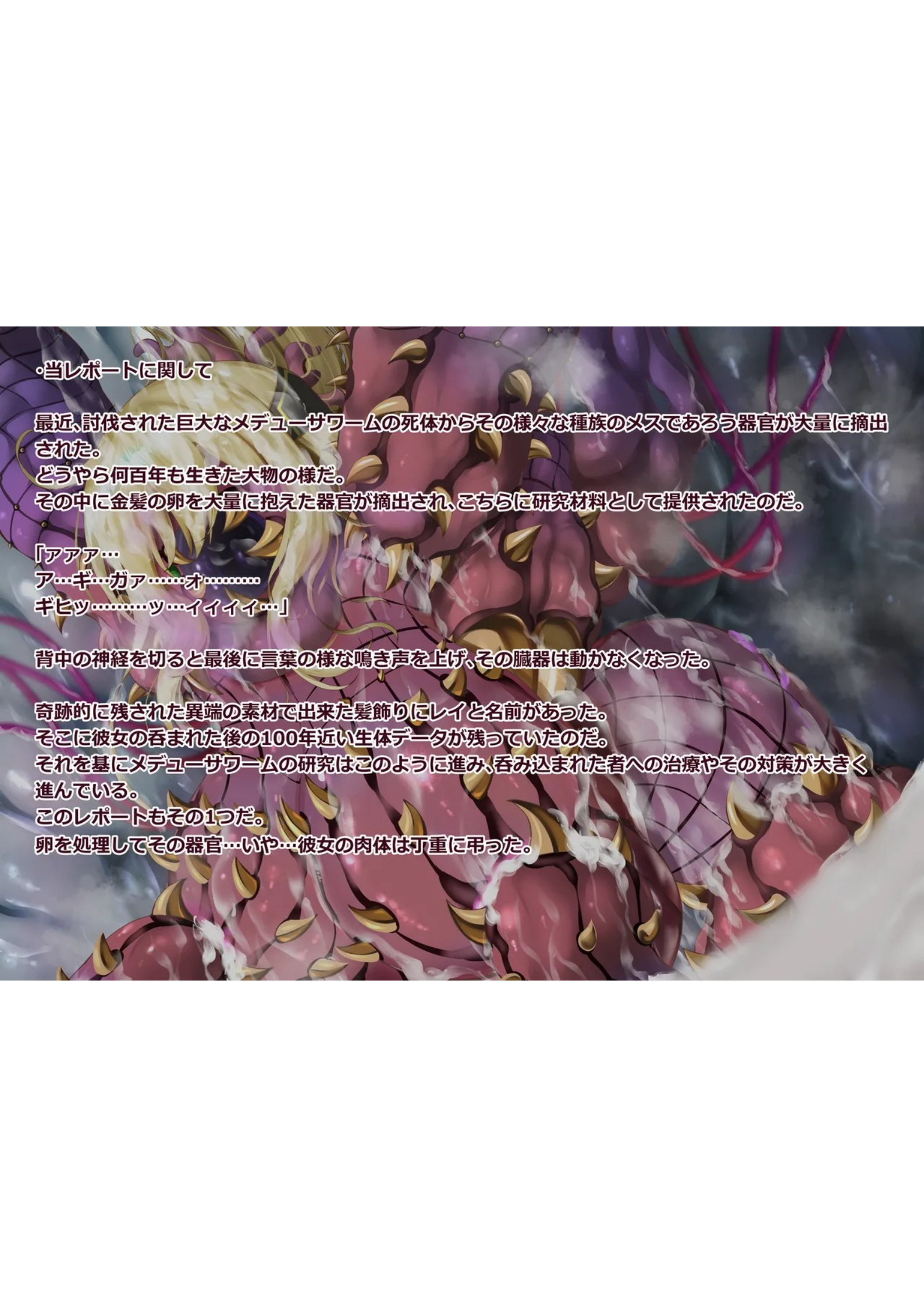
目は完全に退化し、口は栄養を注ぎ入れるだけの穴と化してしまう。
蟲として完全に適応した今の身体には蟲の体液はご馳走となっており、その幸福感を与えない為舌も鼻も退化して嗅覚も味覚も無い。

餌の質感向上で絶望感を常に味わわせる為に脳だけは人としてそのまま生きており、そのメスは屈服も
快樂に墮ちる事も許されない。

保たれたままの意識で快樂漬けの生き地獄を味わう事になる。

助けを求めても発する蟲の鳴き声ではもう誰にも届かない。

汗を舐められ、腹に卵を蓄え餌を排泄する…それが取り込まれたメスの使命である。



◦当レポートに関して

最近、討伐された巨大なメデューサワームの死体からその様々な種族のメスであろう器官が大量に摘出された。

どうやら何百年も生きた大物の様だ。

その中に金髪の卵を大量に抱えた器官が摘出され、こちらに研究材料として提供されたのだ。

「アアア…

ア…ギ…ガア……オ……

ギヒツ……ツ…イイイイ…」

背中中の神経を切ると最後に言葉の様な鳴き声を上げ、その臓器は動かなくなった。

奇跡的に残された異端の素材で出来た髪飾りにレイと名前があった。

そこに彼女の呑まれた後の100年近い生体データが残っていたのだ。

それを基にメデューサワームの研究はこのように進み、呑み込まれた者への治療やその対策が大きく進んでいる。

このレポートもその1つだ。

卵を処理してその器官…いや…彼女の肉体は丁寧に吊った。